

庁舎及び大貫駅周辺地区都市再生整備計画

事後評価結果の概要

◎事後評価について

完了した事業と整備中の事業の概要、その事業効果をご紹介します。この度、事業終了に際し、交付金を活用したまちづくりの事後評価を実施し、まちづくりの成果や今後のまちづくり方針などを事後評価シートにとりまとめました。

本概要は、その事後評価結果の主な内容について、まとめています。

◎庁舎及び大貫駅周辺地区のまちづくりの概要

区域面積：1,304ha

事業期間：平成24年度～平成28年度（5カ年）

事業費：705.0（百万円）

【まちづくりの目標】

大目標：安全と安心を実感できるまちづくり

目標 1

安全・安心な生活環境基盤づくり

目標 2

利用し易い公共施設づくり

↓ 事業の実施

事業効果① 事業効果②

- ・市民の生活環境基盤の強化
- ・緊急車両等の活動の円滑化

↓ 事業結果

広域道路の整備に向けた公共用地の確保と道路工事着手の条件が整った

↓ 事業の実施

事業効果③ 事業効果④

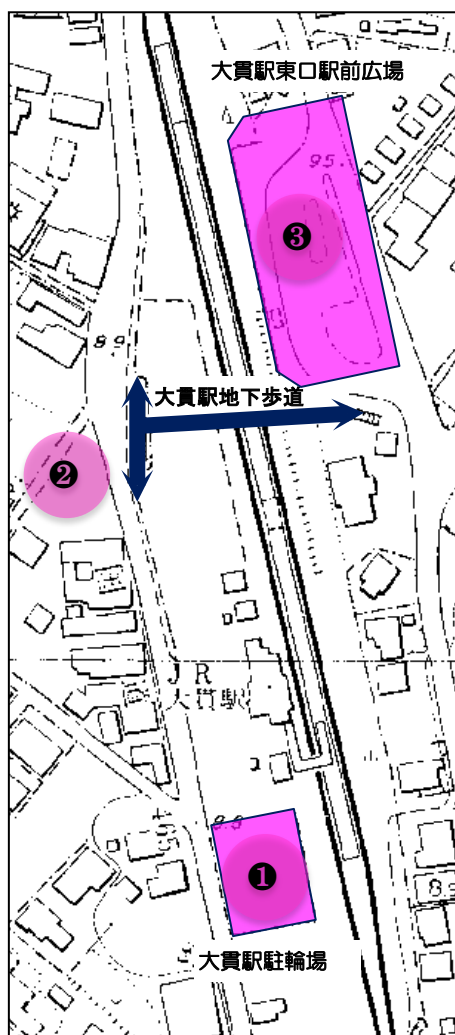
- ・利用者目線の整備による
利便性向上・安全性向上

↓ 事業結果

快適で安全に安心して利用できる公共施設整備が進んだ

【主な実施事業】

■大貫駅周辺事業箇所 [①大貫駅駐輪場]



[①大貫駅駐輪場] ◇事業効果③④

- 屋根付きで照明を設備し出入口も大きくし、自転車と原動機付き（50cc以下）自転車の駐車を分り易くするなど利用者目線の整備をしました。
- 屋根もなく放置自転車や転倒自転車がも多く、また防犯上も問題があった駐輪場の施設改良を行いました。



■大貫駅周辺事業箇所 [②大貫駅地下歩道]

[②大貫駅地下歩道] ◇事業効果③④

- 地下歩道内の内部湧水がなくなり、落書き防止塗料により明るく安全に利用できるよう整備しました。



■大貫駅周辺事業箇所 [③大貫駅東口駅前広場]

[③大貫駅東口駅前広場] ◇事業効果③④

- ・駅前広場を整備し、老朽化したバス停のシェルター、境界柵を整備し、利便性を向上させました。



整備後



整備前



整備後



整備後

■道路事業箇所 [市道山王下飯野線] [市道下飯野線] [市道小久保岩瀬線]

◇事業効果①②

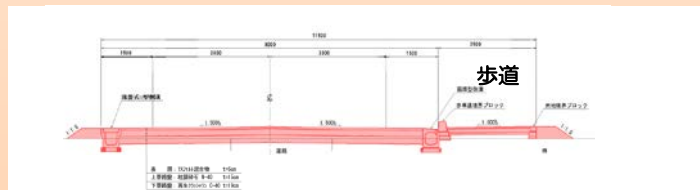
- ・道路整備が目に見える形まで進んでいませんが、各路線ともに、事業実施箇所の基礎的な工事〔実施設計、道路基礎工事（路体盛土）など〕や、用地買収が概ね完了しています。
- ・本事業終了後の平成29年度からは、各路線の工事着手を順次進めます。

整備前

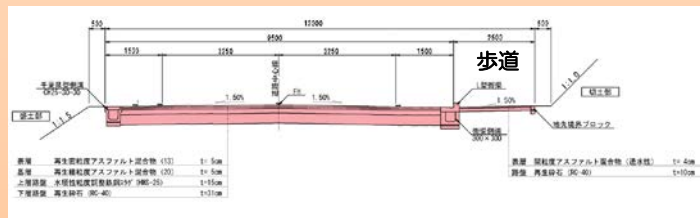


完成を目指している道路の断面図

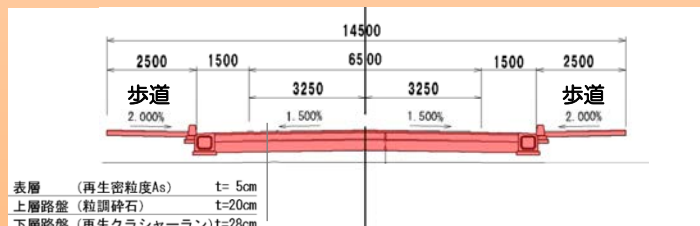
[市道山王飯野線] 延長 L=1,300m 幅員 W=12.0m



[市道下飯野線] 延長 L=1,870m 幅員 W=11.5m



[市道小久保岩瀬線] 延長 L=590m 幅員 W=14.5m



◎事後評価の概要

事後評価の結果は、以下のようになっています。

【事業効果を計測する数値指標の達成状況】

目標達成度

- ：評価値が目標値を上回った場合
- △：評価値が目標値には達していないものの、事業後の数値変化の傾向よりは改善していると認められる場合
- ×：評価値が目標値に達しておらず、かつ事業後の数値変化の傾向よりも改善が見られない場合

①当初指標の結果

計画の中で設定した数値指標の達成状況は、以下の通りです。

指標名	事業前の数値	事業後の目標値	評価値	達成度	一年以内の見込み
指標1 道路の満足度	-0.42点	0.0点	-1.26点	×	なし
指標2 地下歩道の通行者数	904人	990人	1,089人	○	—
指標3 駐輪場の満足度	-0.81点	0.0点	3.1点	○	—

《 指標1：道路の満足度 》

用地買収は終了し工事着手手前段階まで進みましたが、目に見える形に道路整備が進むにはまだ数年かかり、1年以内に目標値を達成しないため、達成度は×としました。

フォローアップは行ないません。

《 指標2：地下歩道の通行者数 》

一般（高校生以下を除く）の男性・女性、高校生以下の男性・女性共に地下歩道利用者の計測値（確定値）が整備前より増加し、目標値を上回ったため、達成度は○とした。

《 指標3：駐輪場の満足度 》

利用者の要望を取り入れた整備により、利用し易いと評価が満足度向上につながり、計測値（確定値）が目標値を上回ったため、目標達成度は○としました。

②その他の数値指標の結果

計画の中で設定した数値指標以外に、小目標や達成度〇にならない指標を補完するため、設定しました。

- 指標1を補完して、道路整備事業が着実に進行していることを説明するため、その他の数値指標1：「広域道路の公共用地の確保率」を設定しました。
- 指標3を補完して、利用しやすい公共施設づくりが進んだことを説明するため、その他の数値指標1：「地下歩道を利用する一般（高校生以下を除く）の増加率」を設定しました。
- 指標3を補完して、利用しやすく安全性も向上したことを説明するため、その他の数値指標1：「駐輪場の安全性向上」を設定しました。
- 「小目標1：安全・安心な生活環境基盤づくり」について、その事業効果を測るため、その他の数値指標1、その他の数値指標2を設定しました。
- 「小目標2：利用し易い公共施設づくり」について、その事業効果を測るため、その他の数値指標3を設定しました。

各指標の達成状況は、以下の通りです。

指標名	事業前の数値	評価値	達成度
その他の数値指標1 広域道路の公共用地の確保率	0%	92.0%	効果あり
その他の数値指標2 地下歩道を利用する一般（高校生以下を除く） の増加率	0%	38.0%	効果あり
その他の数値指標3 駐輪場の安全性向上	0点	2.5点	効果あり

《 その他の数値指標1：広域道路の公共用地の確保率 》

市道整備に係る用地買収進捗率は、3路線とも順調に進み、3路線平均で92%と工事着工できる状況に至っており、道路整備事業が着実に進行していることが確認されました。

《 その他の数値指標2：地下歩道を利用する一般（高校生以下を除く）の増加率 》

地下歩道整備により全利用者が20%伸び、一般（高校生以下を除く）の利用者数も38%に伸び、生活基盤整備づくりが評価されたことが確認されました。

《 その他の数値指標3：駐輪場の安全性向上 》

全回答者118人の約70.3%に、新しい駐輪場の安全性が向上したとの評価を得ており、さらに、有効回答者中89人の満足度評価点は「+2.5点」であることが確認されました。

③定性的な評価

①と②でまとめた数値的な評価の他、事後評価アンケート調査より得られた意見や、実際に事業効果が見られたことなど、数値では表せない事業効果をまとめています。

○地下歩道は明るく安全に利用できるように整備されたことから、地下歩道内の内部湧水、さらに落書きも無くなり、地下歩道利用者に安全性・利便性が評価されて全体数も増加し、さらに一般（高校生以下を除く）の利用者も38%増えています。

○駅周辺の基盤施設（地下歩道・駐輪場・駅前広場）の機能向上を図ったことにより、一体的に利用されるようになり、大貫駅方向へより駅前広場方向への地下歩道利用者数が、男女ともに増加し、駅周辺は利用しやすい施設づくりが進んだと言えます。

○天候に左右されずに利用できる屋根付き駐輪場が実現したことで放置自転車の減少にも寄与していると言えます。

○大貫駅東口駅前広場は、減少傾向だったバス乗降客数が、平成25年度の整備後に君津駅まで路線延伸したことも重なり、大貫駅を一体的に利用できる併設の地下歩道の安全性の向上とともに、平成27年度までに駅前広場バス停25%、大貫駅前バス停14%と両バス停の利用者数が増加したことから、利便性が高まり利用者の満足度も高いと考えられます。

【まちの課題の変化】

今回の事業によって、まちの課題がどのように変わってきたのかをまとめています。

- 各道路整備区間の用地買収等が進み、工事着手を平成29年度から歩道整備や交差点改良整備を行える段階まで進展しました。
- 消防防災センターが移転新設され、市民に安心・安全を提供できる緊急自動車の活動を行う環境が整いました。
- 駐輪場の利便性向上、地下歩道の利用者増に加え東口駅前広場整備の完了によって、駅利用者の移動は円滑に行え、利便性の向上に寄与しています。

【今後のまちづくりについて】

今回の事業を踏まえ、今後のまちづくりについてまとめています。

- 早期の広域道路網整備に向けて、関連機関との協議・調整を図っていきます。
- 道路整備を社会資本整備総合交付金に移行した後も計画的な整備促進に向け、道路沿道や周辺の関係権利者等への理解を得られる分かり易い説明会の実施により、市民の理解を得ながら、「道路の満足度」が高まるよう着実な工事計画を推進していきます。
- 利用しやすい公共施設の適切な維持管理と安心・安全に利用できる施設の運営を進めます。